

20年の軌跡

1994



第1回 HAB協議会研究会

HAB協議会 第1回研究会

医学・薬学領域におけるヒト組織の有効利用に関するシンポジウム

—日本と欧米の現状—

プログラム・要旨集

日時：1994年5月17日(火)
会場：富士写真フイルム株 本社ホール

主催：HAB協議会
協賛：日本薬物動態学会

Human & Animal Bridge

NEWS LETTER

Vol.1 NO.1
1994.8.20
HAB協議会・発行

HAB(Human & Animal Bridge)協議会の設立とその事業内容および今後の計画

HAB協議会 会長 六戸 亮

HAB協議会設立について

近年、科学の進歩と共に、医療技術の進歩もまた著しく、長い間人類を苦しめてきた多くの伝染性疾患や慢性疾患は、次々に克服されて来ている。しかし一方で、原因不明の疾患、治療の困難な疾患は、依然として存在し、同時に、文明の進歩と共に、文明社会においては、成人病、複合汚染による公害病に対する対策、更に人口の高齢化に伴う多様な老人病に対する予防、介護治療対策といった新しい医療問題が生じて来ている。各種疾患の原因究明およびその治療薬の新しい開発は、依然として医学研究の最重要課題のひとつでありつづけている。

疾患の原因究明ならびにその治療薬の開発には、各種動物試験ならびに種々の段階の臨床試験が欠くべからざるものであることは論を待たないが、科学技術の発展によって、我が国においても、その方法論や実施体制は、著しく進歩、改善されたと言えてよいであろう。

そしてそのために、各種動物試験には、多数の実験動物の使用、整備された実験施設が必要とされる。一方、各段階の臨床試験には、少なからざる健康人志願者ならびに特殊患者の参加も必要になって来ている。このことは、必然的に、一方で原因究明ならびに治療薬の開発研究等を担当する当該研究試験機関の経済的ならびに時間的負担を大きくしているばかりでなく、他方では、その実施について常に人権擁護ならびに実験動物愛護の立場からの厳しい批判を受けることになっている。

以上の現状を考えると、これからの試験について、その方法論的検討ならびにその体制の再検討を行うことが、二十一世紀に向けての医療の発展における緊急の課題のひとつとなっていると言えて過言ではないであろう。

以下この問題に関する現在検討すべき問題点を要約すれば次のごとくなる。

1. 疾患の原因究明のために行われている各種動物試験は、その研究結果をただちに人に適用するには、常にある種の限界があるのではないかと、また治療薬の開発のため臨床試験に先立って行われる現行の多くの動物試験は、ヒトの安全性にとって不可欠且つ必要にして十分な試験である

目次

HAB協議会の設立とその事業内容および今後の計画 会長 六戸 亮	1
会期	2
理事、評議員リスト	4
第1回研究会開催	5
①プログラム	5
②HAB協議会第1回研究会開催にあたって	6
③第一回研究会出席者	6
④一般参加者一覧	6
⑤HAB協議会第1回研究会出席者印	7
独立小児病院 両宮 浩	7
アンケート	
①アンケート調査集計結果について	8
生体科研 斎藤昭雄	8
②アンケート返答と回答	9
関連学会の紹介	
①日本薬理保存生物医学会の設立意義と今後の課題	10
日本薬理保存生物医学会 理事長 小嶋正巳	10
②14th European Workshop on Drug Metabolism	11
に参加して 生体科研 相澤道明	11
お知らせ	12
編集後記に代えて 副会長 佐藤哲男	12

第1号

HAB NEWS LETTER

心をつなぐ命の科学
Human & Animal Bridging
Vol.19 No.2 2013.03.04

CONTENTS

- ＜巻頭言＞
ヒト組織を用いた研究の必要性
日本薬物動態学会 北野 光
- ＜オピニオン＞
(1) 薬物動態学とヒト組織 藤 野
(2) 東京女子医科大学病院・内科 西澤
(3) 株式会社大塚製薬(株) 内藤 浩徳
(4) 高薬品情報センター 村瀬 信治
- ＜連載＞
薬物トランスポーター研究の歴史と医薬品開発への応用
クメイアキマ(株) 代表取締役 高橋 仁
- ＜連載＞
学会の思い出話
北海道大学名誉教授・薬学 野呂
- HAB 研究機構 会員の頁
(1) 金沢大学 藤井 隆
(2) 研経製薬株式会社 松本 浩樹
- 市民公開シンポジウムの報告
- 第20回 HAB 研究機構学術年会のお知らせ
(1) 学術年会開催にあたって
(2) プログラム
- HAB 研究機構設立20周年と清宮プロジェクトの報告
- お知らせ

特定非営利活動法人(NPO)
エイチ・エー・ビー研究機構

機関誌「NEWSLETTER」発行開始

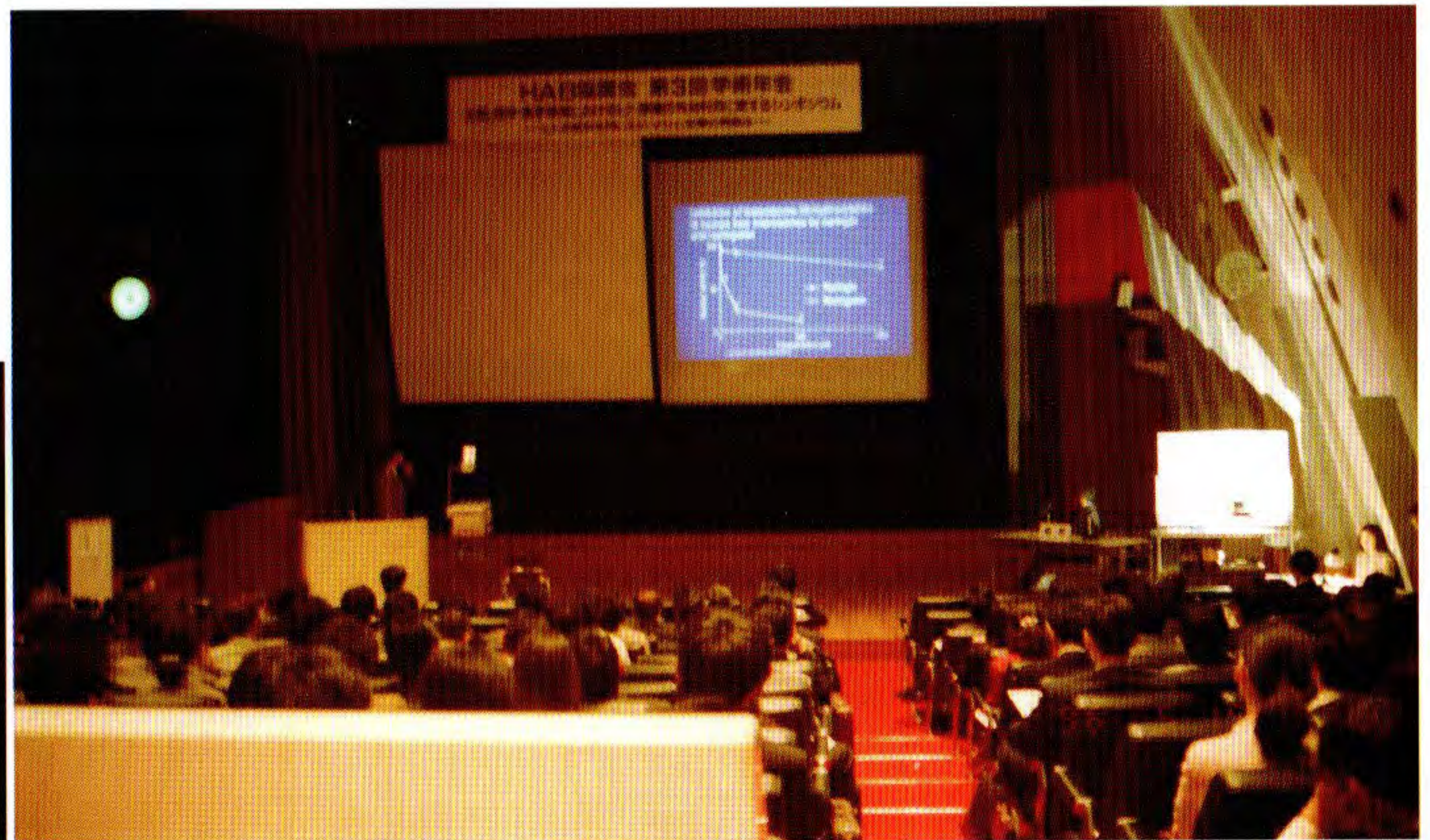
1995

東京文京区に事務局を開設



1996

千葉県白井市に霊長類機能研究所を設立



第3回 HAB協議会学術年会

1997

第4回 HAB協議会学術年会



1998



第5回 HAB協議会学術年会



第1回 機能研セミナー



In vitro における薬物代謝酵素活性測定試験に関する標準操作手順書

「薬物相互作用データベースプロジェクト」研究班
HAB 協議会附属薬理機能研究所
1998年11月16日 発行（初版）

SOP/HAB/DBWG010-1

1. はじめに

<In vitro における薬物代謝活性の測定方法>

反応はデュプリケートで行なう。ガラス試験管あるいはエッペンデルフ型遠心管に 0.25 mM EDTA-0.25 M リン酸カリウム緩衝液 (pH 7.4) 200 μ l、基質溶液 5 μ l、阻害物質 5 μ l (ブランクおよびコントロールには阻害剤を添加する代わりに、それぞれの溶媒を添加する)、ヒト肝ミクロソームを加え、最終反応液量が 450 μ l になるように蒸留水を加える。37°C で 5 分間インキュベート後、NADPH 生成系 (β -NADP (最終濃度: 2.5 mM)、グルコース-6-リン酸 2 ナトリウム塩 (最終濃度: 25 mM)、グルコース-6-リン酸脱水酵素 (最終濃度: 2 units) および塩化マグネシウム (最終濃度: 10 mM)) 50 μ l を添加して反応を開始し、37°C で一定時間インキュベートする。ブランクは反応終了後基質溶液を添加する。検量線は基質溶液を添加する代わりに代謝物溶液を添加し、その定量値から代謝物の生成量を求める。

<算出するパラメータ>

CYP 各分子種の標準基質に対する薬剤 (阻害剤) の阻害定数 (K_i) を Dixon Plot により算出する*。
(* K_i 値は各線分の交点の平均値として算出する。)

<濃度の設定>

各 CYP 分子種の標準基質の濃度は K_m 値 (別添資料参照) をはさんで 1/2 K_m 、2 K_m の 3 濃度を基本とする。阻害剤となる薬物は物理化学的性質等を考慮し、阻害作用を評価できる濃度 (濃度 0 を含め 4 濃度以上) を設定する。

<溶媒の選択>

各 CYP 分子種の標準基質については標準操作手順書に記載した方法 (溶媒) で溶解する。各社の薬物については蒸留水で、解けない場合には DMSO を用いて溶解することを基本とする。但し、両溶媒でも溶解しない場合には化合物の性質を考慮し適切な溶媒を選択する。いずれの場合にも溶解した溶媒は生データに記載する。

<データ表示>

薬剤の阻害のデータ (K_i 値) はまとめ表に記入して提出する。薬剤の阻害活性が著しく弱く、 K_i 値を算出できない場合も 0.000 M 以上 (>0.000 M) と記載する。

<その他>

定量に際して使用する HPLC 用カラムは原則として本プロトコルに記載したものを使用する。ただし、使用する薬物の保持時間が、基質、内部標準物質等と重なる場合は適宜変更する。

薬物相互作用データベース研究班 SOP 第1版
発行

1999



第2回機能研セミナー

第6回 HAB協議会学術年会

2000

HAB 叢書 Vol.1
「第2回 機能研セミナー proceedings」発行

「科学と個の尊厳」

第2回HAB機能研セミナー
手術組織に関する再生医療の実施に向けて—あるべき姿と課題—
Proceedings
日時:1999年11月30日(火)
会場: 昭和大学上條講堂
主催: HAB協議会 会長 齋藤 隆夫 先生



第7回 HAB協議会学術年会



2001

第8回 HAB協議会学術年会



2002



NDRI 訪問

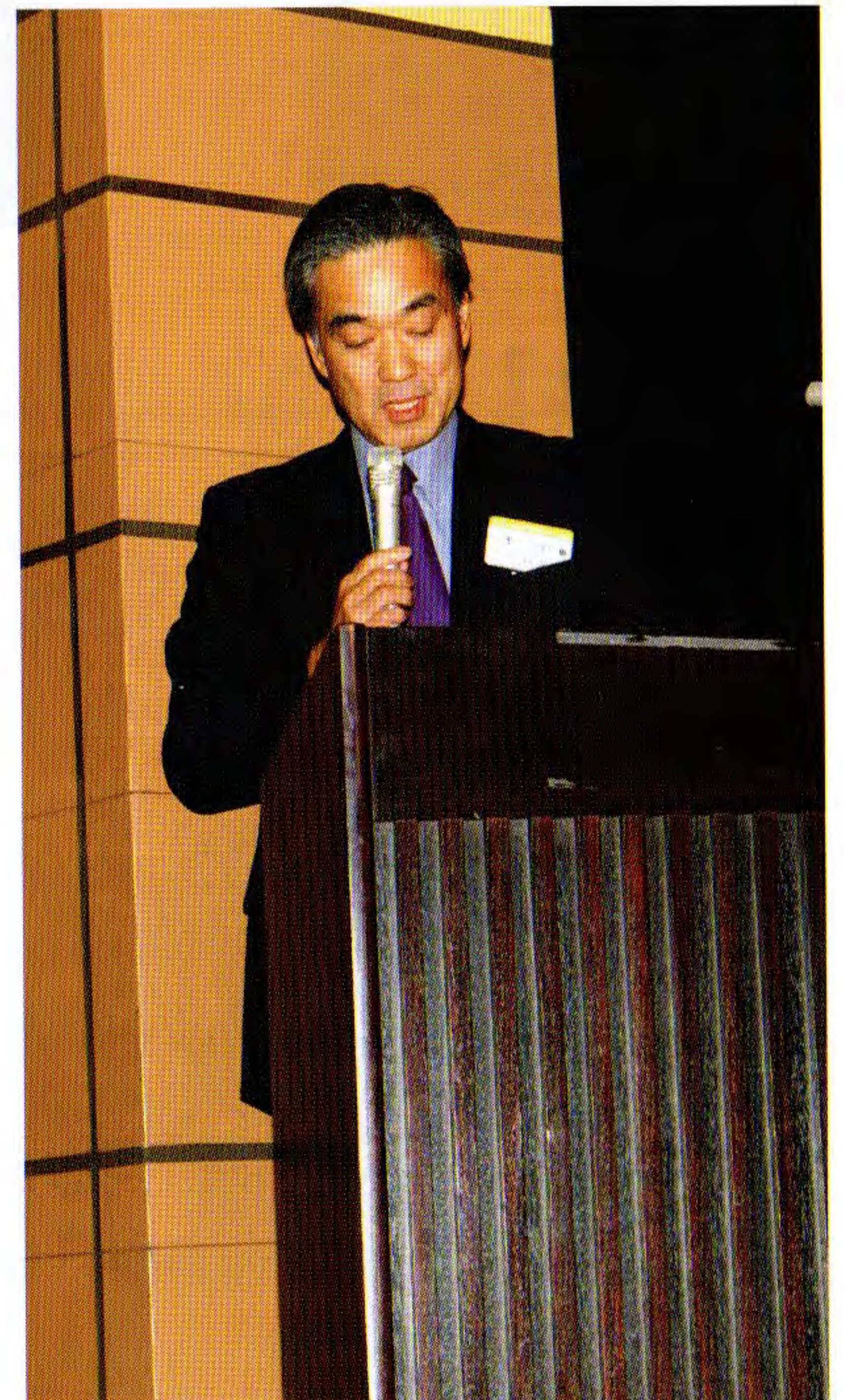


第9回 HAB協議会学術年会

2003



第10回 HAB研究機構学術年会



千葉県市川市に附属研究所を移転

2004

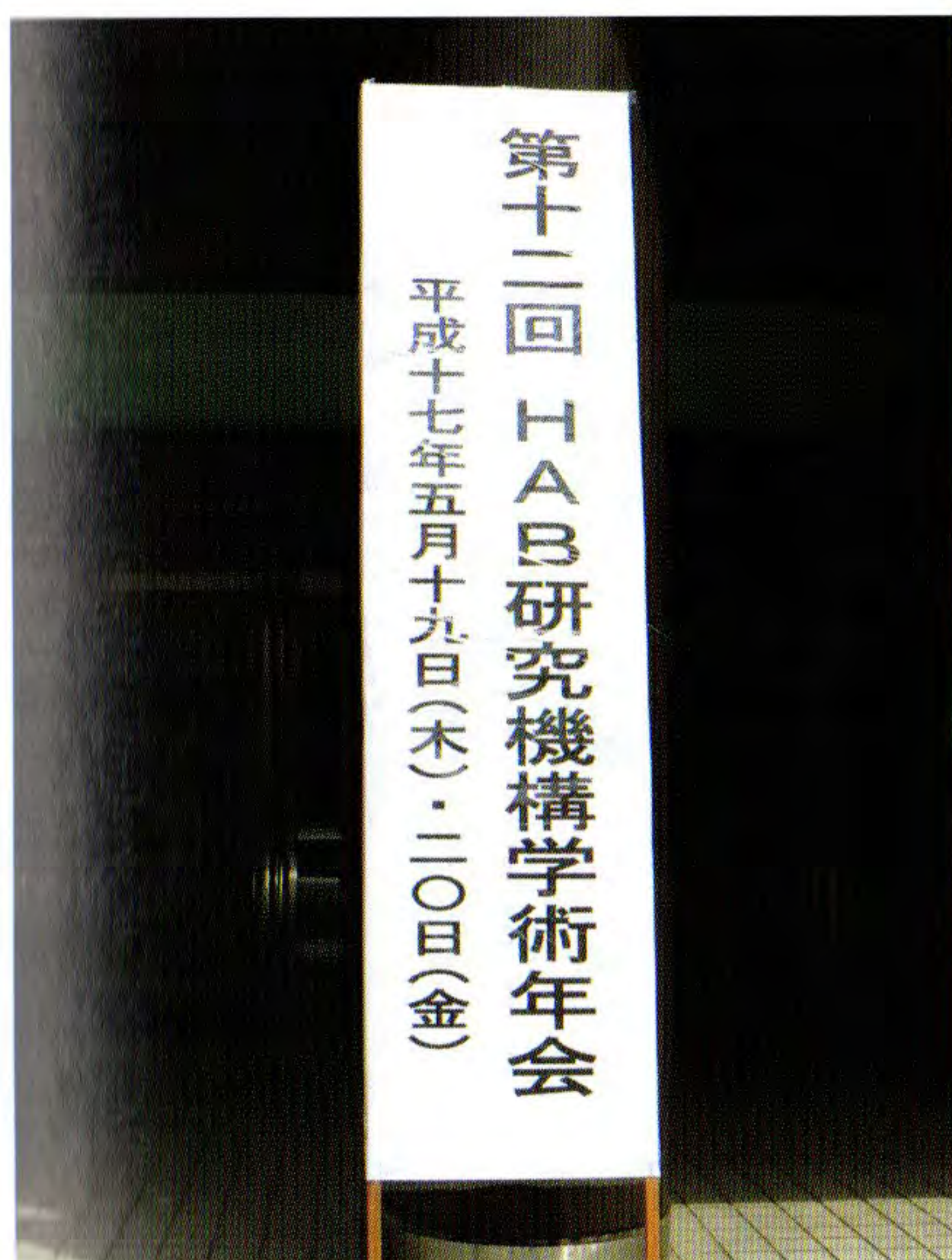


生命倫理研究委員会主催ワークショップ
「川崎病研究の現状と今後への展開の道筋」



第11回HAB研究機構学術年会

2005



第12回HAB研究機構学術年会



人試料委員会開催 (2005年～2007年)



2006



「HAB市民新聞」発行開始



第1号



第13回 HAB研究機構学術年会



2007

第14回 HAB研究機構学術年会



第11回 HAB研究機構市民公開シンポジウム

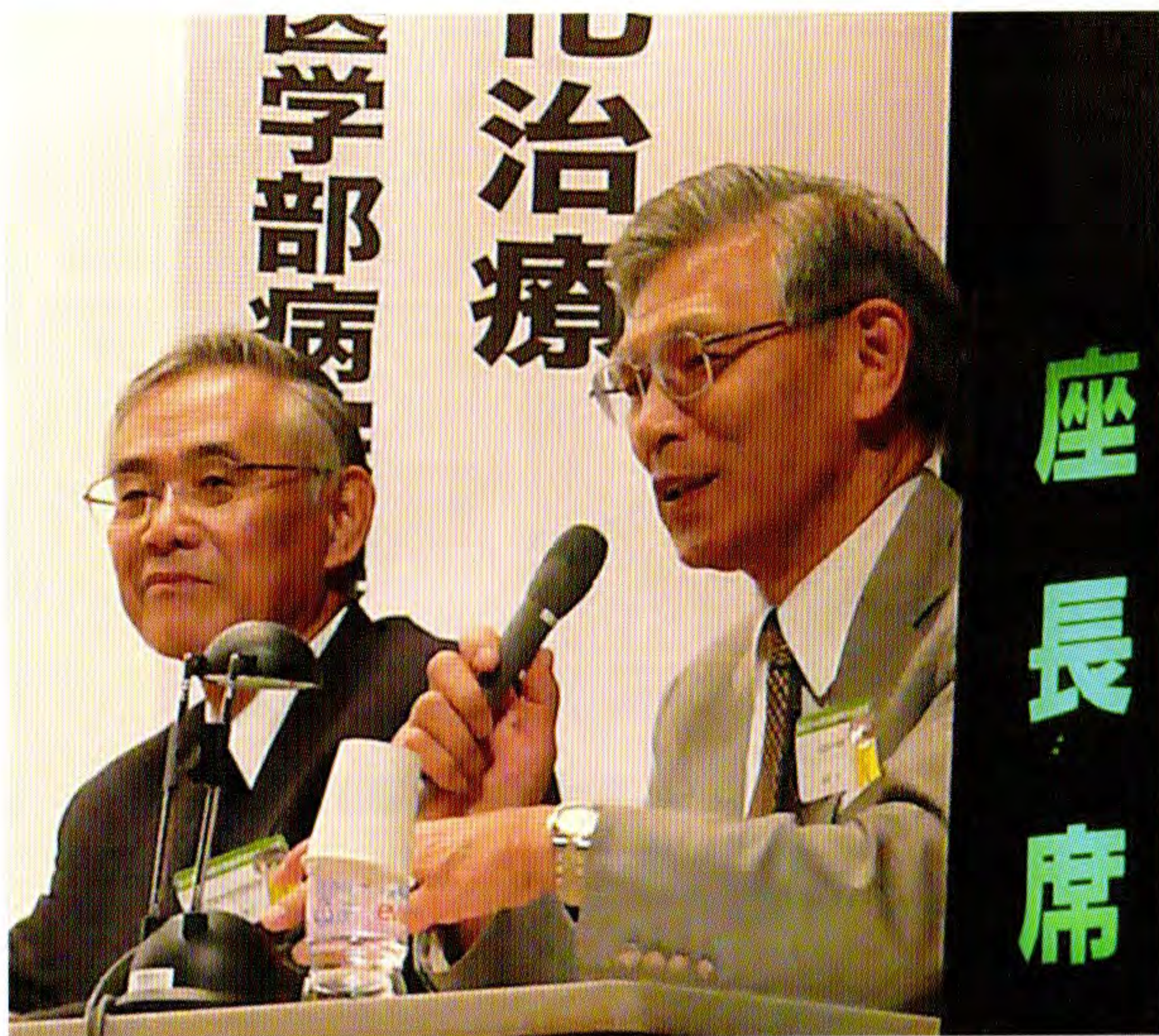
2008

第15回 HAB研究機構学術年会

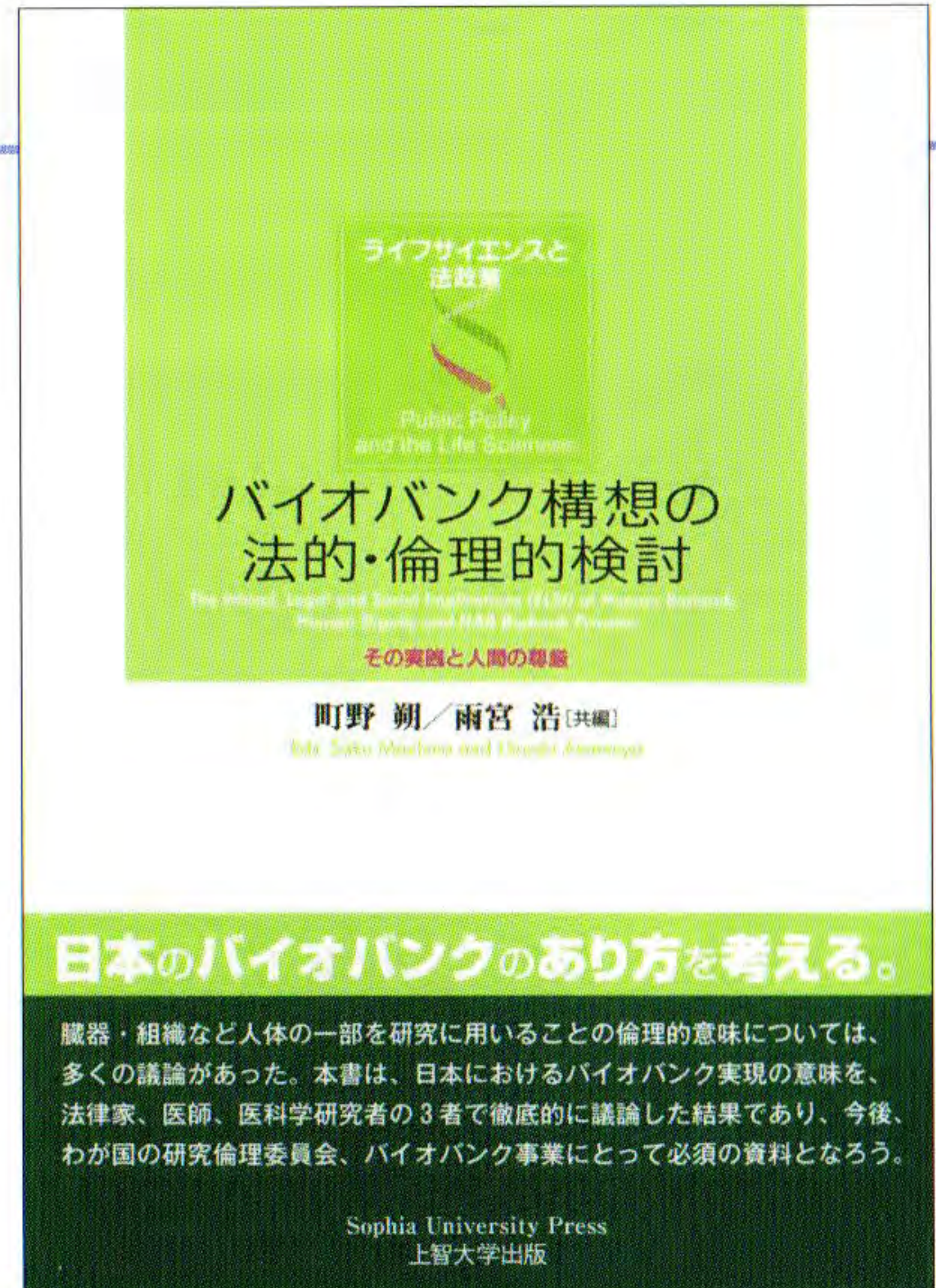


第13回 HAB研究機構市民公開シンポジウム

2009



第16回 HAB研究機構学術年会

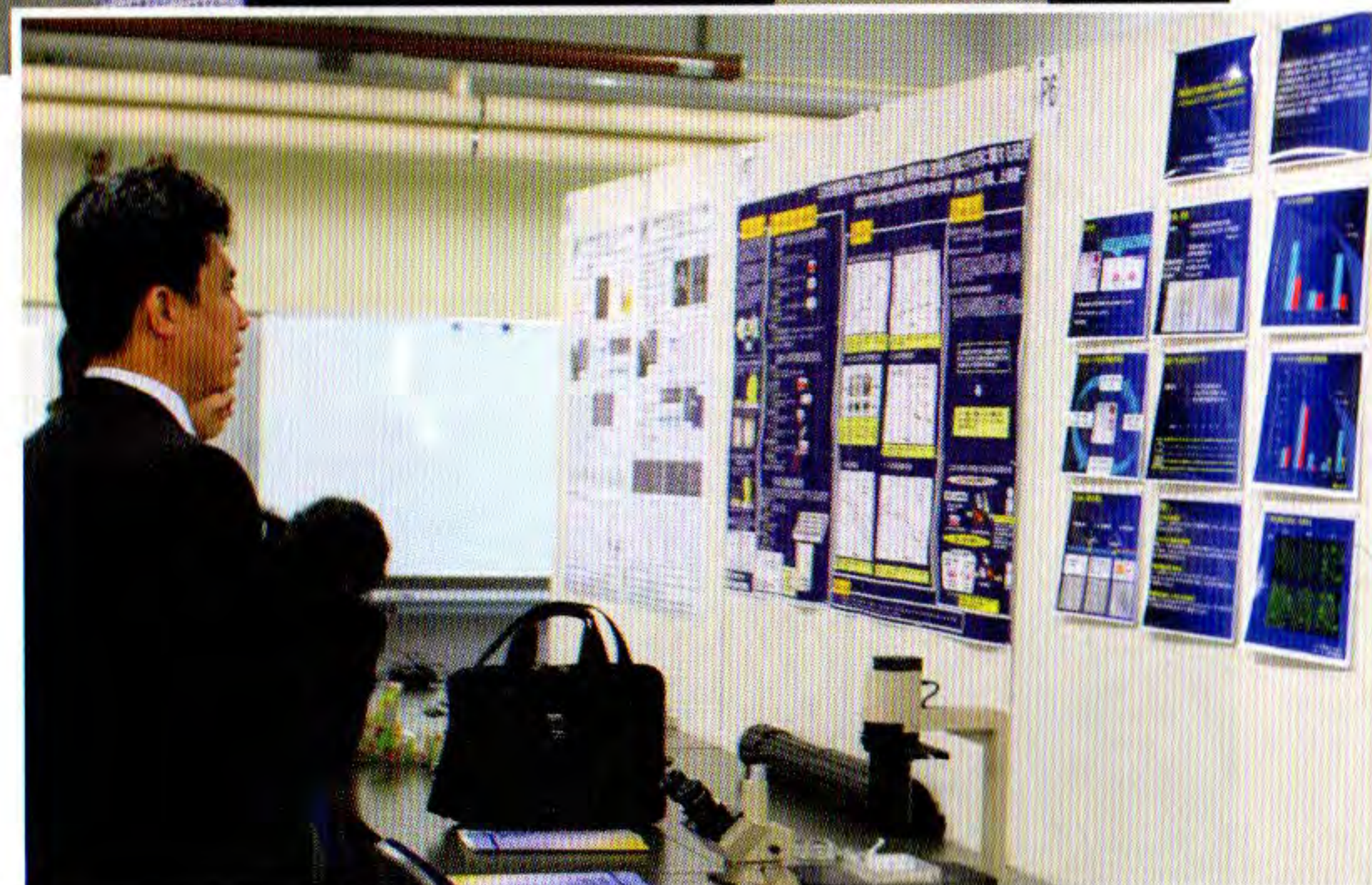


「バイオバンク構想の法的・倫理的検討 その実態と人間の尊厳」出版（町野 朔、雨宮 浩共著：上智大学出版、2009年12月）

2010



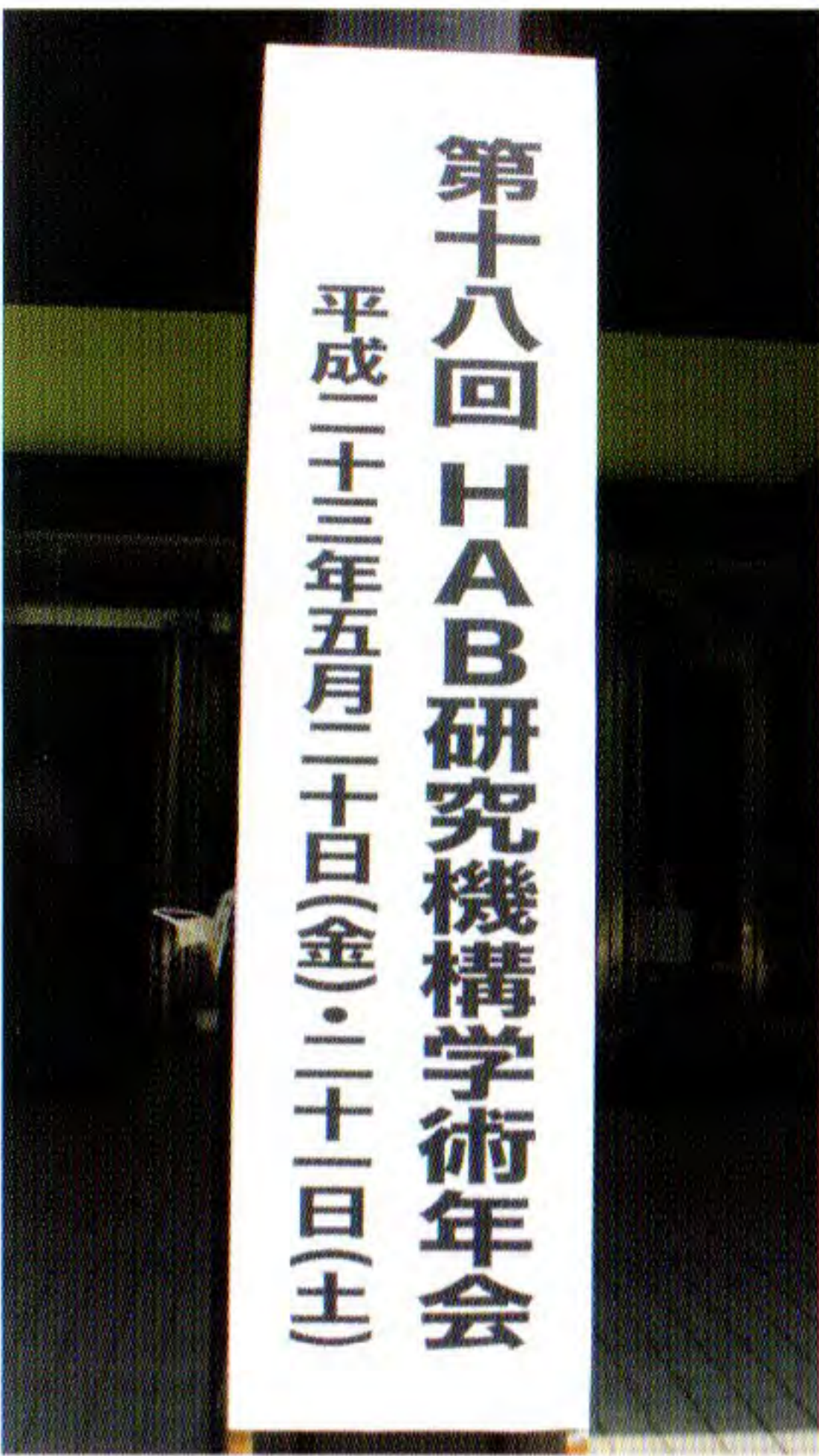
第17回 HAB研究機構学術年会



第17回 HAB研究機構学術年会 / ランチオンプレゼンテーション



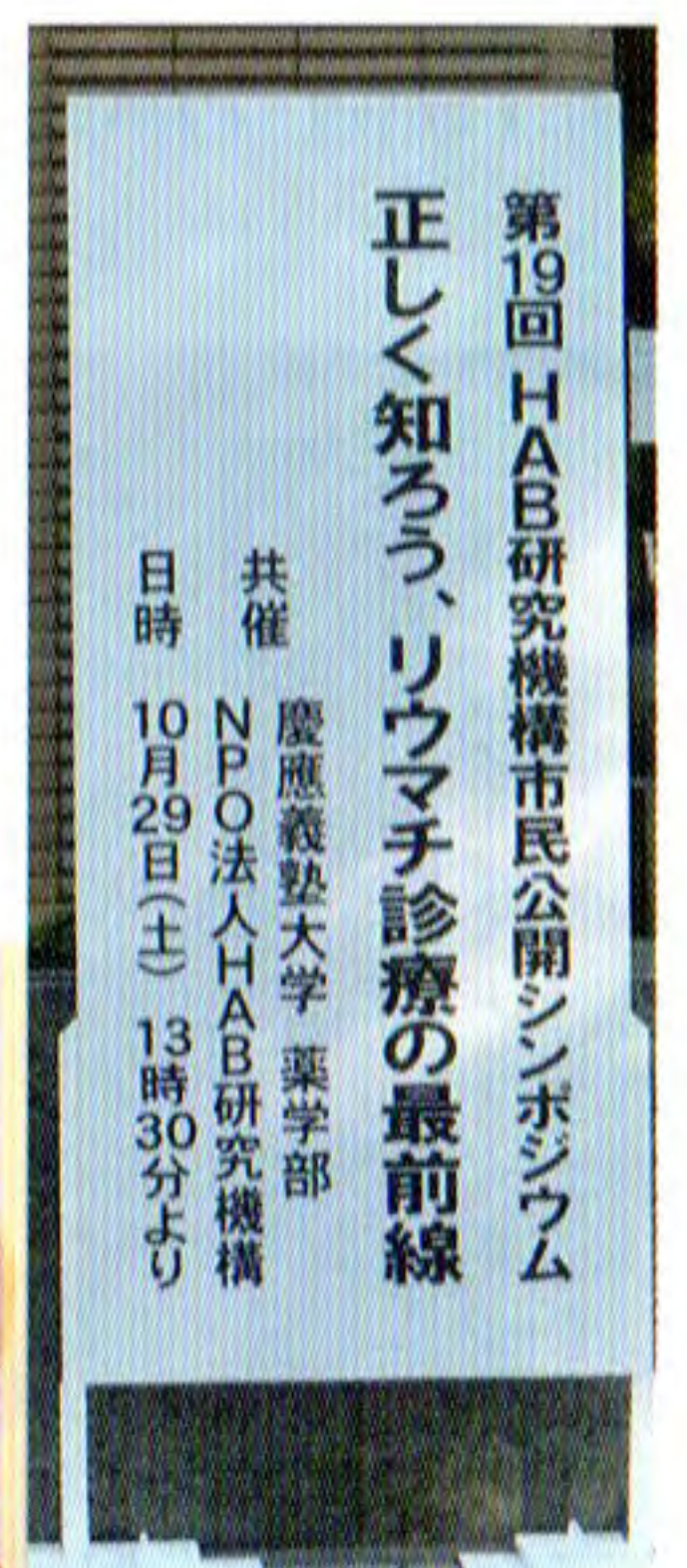
第17回 HAB研究機構市民公開シンポジウム



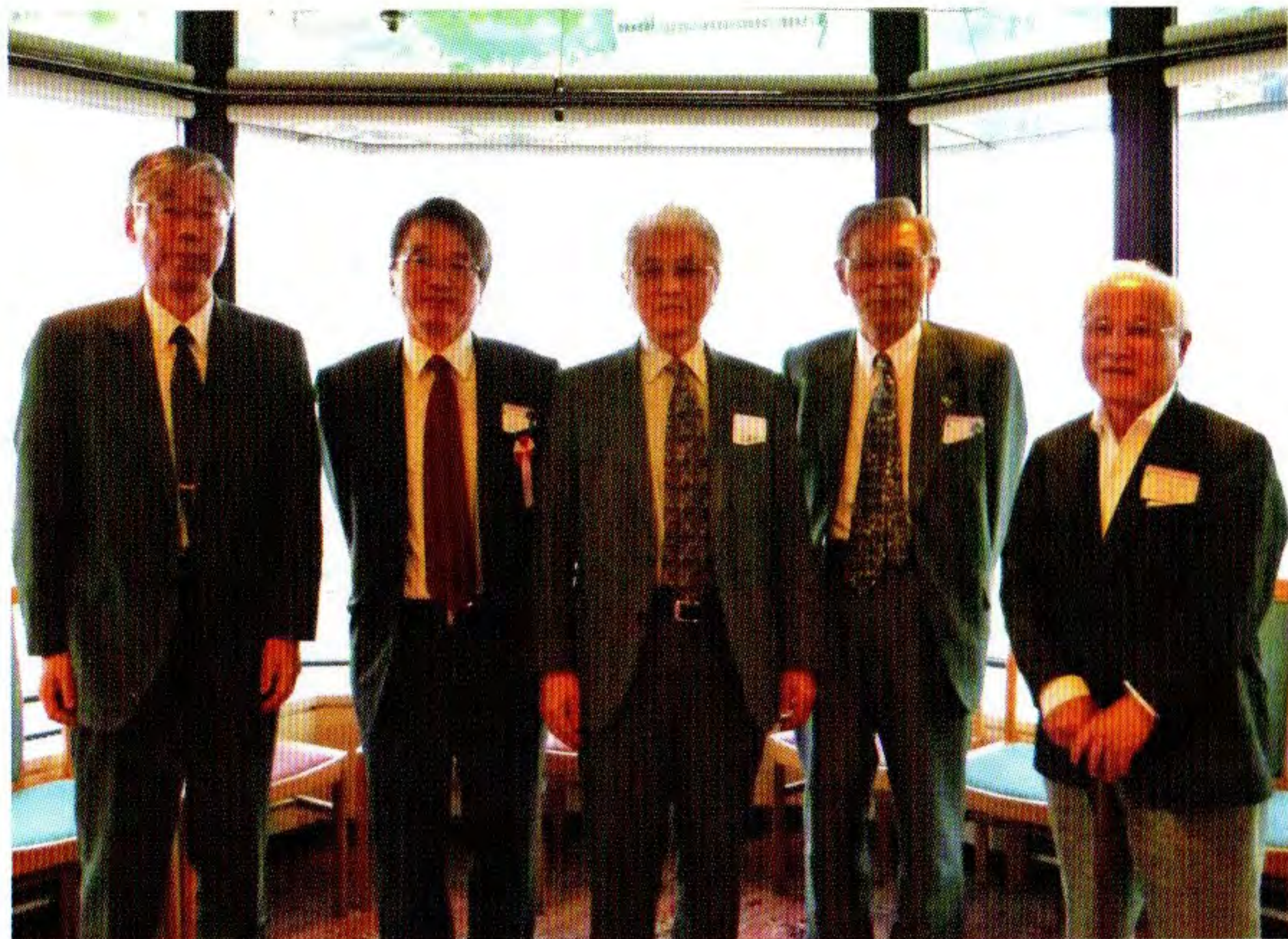
第18回 HAB 研究機構学術年会



第18回 HAB 研究機構市民公開シンポジウム



第19回 HAB 研究機構市民公開シンポジウム



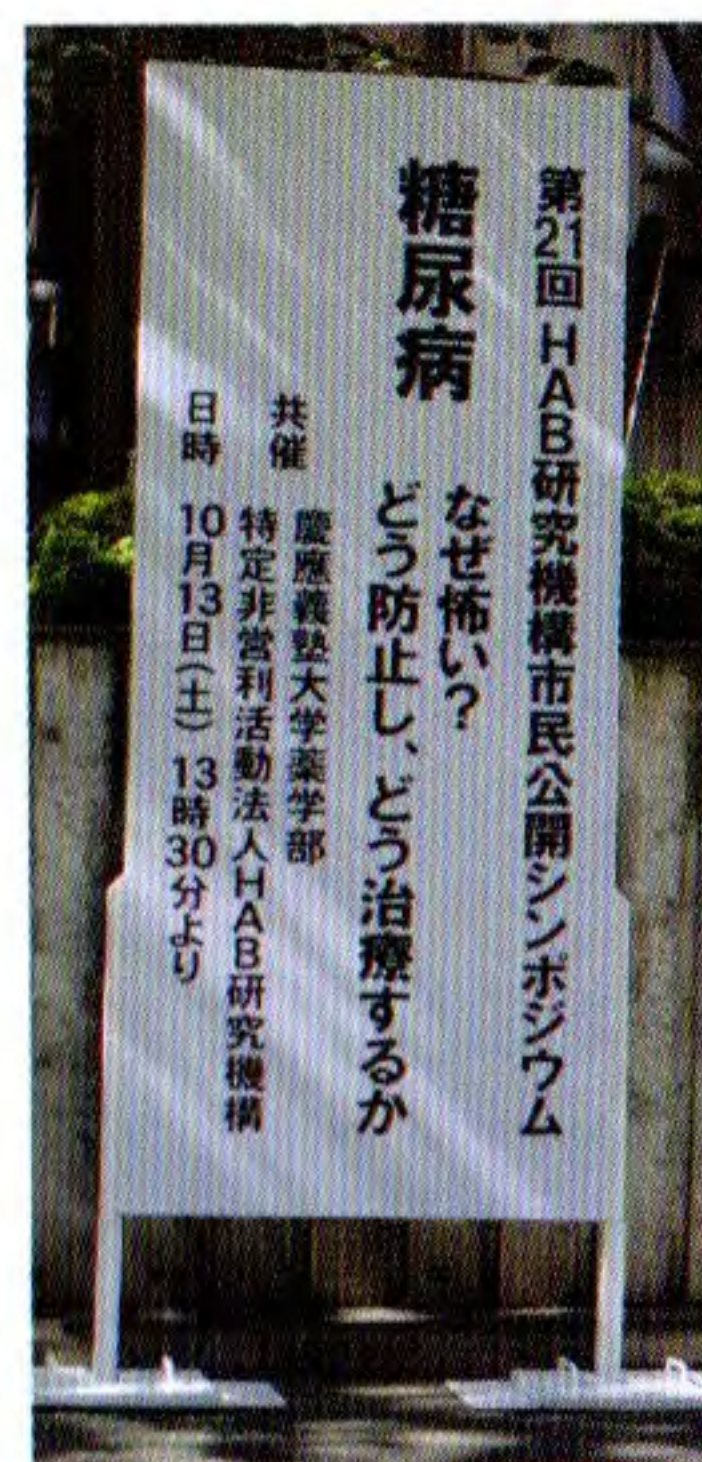
NDRI 訪問



第19回 HAB研究機構学術年会



第20回 HAB研究機構市民公開シンポジウム



第21回 HAB研究機構市民公開シンポジウム

